

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02193

研究課題名(和文) アドルノの亡命期間における現象学研究的の解明

研究課題名(英文) The elucidation of the phenomenological studies during the exile period of Th. W. Adorno

研究代表者

青柳 雅文 (AOYAGI, MASAFUMI)

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：90469099

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：フランクフルト学派を代表する思想家Th・W・アドルノの亡命期間における現象学研究的を解明するため、ドイツに渡航し、「Th・W・アドルノ・アルヒーフ」を訪問した。そこでは、アドルノが期間中に書き残した未公開草稿「フッサール・ブック」、および彼の思想形成と展開に関連する諸草稿を詳細に分析した。アルヒーフ研究員からは、当該資料の成立経緯について聞き取りをおこなった。その成果については、論文および学会発表において公表された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまで注目されることのなかった亡命期間のアドルノの現象学研究的が解明されることから、アドルノの思想全体において亡命期間の思想と現象学研究的をそれぞれ位置づけられる。そして現象学との関係という観点から、アドルノの思想の全体像を浮き彫りにすることが可能になる。そしてそれは、彼の「非同一的なもの」の思想を現象学研究的の観点から明らかにすることができる。

研究成果の概要(英文)：In order to elucidate the phenomenological studies during the exile period of Th. W. Adorno, who is German philosopher and a member of the Frankfurt School. I visited "Th. W. Adorno Archiv" in Germany where I analyzed in detail his unpublished manuscript as "Husserl Buch" and the materials related to the formation and development in his thought. I also interviewed officer in the Arhiv about the history of Adorno's materials. The results of my studies were published in papers and conference presentations.

研究分野：哲学

キーワード：フランクフルト学派 アドルノ 哲学 現代思想 亡命 ドイツ イギリス アメリカ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

Th・W・アドルノは、非同一的なもの の思想を主張したことで知られ、ヘーゲル哲学やマルクス主義的社会理論との関係から論じられることが多い。だが彼は学位論文で E・フッサールの現象学を取り上げて以来、晩年には『認識論のメタ批判』を公刊するまで、生涯一貫して現象学を対象として研究を行い、自らの思想を形成してきた。またユダヤ人である彼は、ナチスの手を逃れ亡命生活を余儀なくされた。フランクフルト学派のメンバーの多くがアメリカへと亡命したのとは異なり、彼はアメリカ移住の前にイギリスに滞在し、オックスフォード大学に「アドヴァンスト・ステューデント」として在籍していた。

研究代表者は、アドルノの思想形成において現象学との影響関係が重要な役割を果たしており、彼の現象学研究の解明が喫緊の課題であると考えた。これまでの社会理論や美学理論とは異なる観点から、アドルノの思想の全体像が明るみになると考えられるのである。とくに申請者は、アドルノが亡命期間中に現象学を研究していたことに注目している。というのも、彼はイギリスに滞在している期間中に、400 枚以上に及ぶ草稿を残していたからである。この草稿は、その後のアドルノの現象学研究の基礎をなしており、最終的に『認識論のメタ批判』を執筆する際の土台にもなっている。またアドルノは、イギリスからアメリカに移住した後、前述の未公刊草稿にもとづいて講演「フッサールと観念論の問題」を行っている。彼はアメリカでも現象学を論じている。この講演はいわば彼のイギリスでの活動をアメリカでの活動を結びつける役割を果たしており、その後の思想の変遷を探る上でも解明しておくべきである。

2. 研究の目的

Th・W・アドルノは、20世紀ドイツの思想家であり、フランクフルト学派を代表する人物である。彼は一時期亡命生活を余儀なくされたものの、戦後帰国し 非同一的なもの の思想を確立した。彼の亡命期間中の思想形成については、今日まで十分に明らかにされておらず、とくに彼が現象学を研究していた点は、これまでほとんど取り上げられてこなかった。そこで本研究では、アドルノの亡命期間における現象学研究の解明を目的とする。

3. 研究の方法

アドルノがイギリス亡命期間に書き残した未公刊草稿「フッサール・ブック」の調査を行う。そのために申請者は、ドイツの「Th・W・アドルノ・アルヒーフ」(フランクフルト)に渡航し、保管されている「フッサール・ブック」、及び彼が残した自筆原稿、草稿、書簡の調査を行う。その際、当該資料の成立経緯についてアルヒーフ研究員から聞き取りを行う。これによって、アドルノの現象学理解と、イギリス滞在期間の研究の全貌を明らかにする。そしてアドルノの現象学研究における分析哲学からの影響を浮き彫りにする。

以上の調査で収集した資料及び研究成果を基礎にして、アドルノがアメリカ移住後に発表した講演「フッサールと観念論の問題」における現象学理解について解明する。

次いで、イギリスのオックスフォード大学に渡航し、図書館に保管されている書簡と公文書の調査を行い、前年度に調査した「フッサール・ブック」との関連性を明らかにする。

これらの成果をアドルノの思想の形成過程全体の中に位置づけることで、研究を総括する。

4. 研究成果

(1) 2017年度は、Th・W・アドルノの亡命期間における現象学研究を解明するため、ドイツに渡航し、「Th・W・アドルノ・アルヒーフ」を訪問した。そこでは、アドルノが期間中に書き残した未公刊草稿「フッサール・ブック」、および彼の思想形成と展開に関連する諸草稿を詳細に分析した。「フッサール・ブック」は大部であるため、継続して分析を進めることとした。これとともに、亡命期間の現象学研究が以降どのように展開してゆくことになったのか、という課題が生じてきた。これは研究計画を推進し、研究目的を達成するための補強材料となると考えられる。前述のように、イギリス滞在期間の現象学研究については、なお分析に時間を要するが、研究全体を予定どおりに達成するために、当初は次年度に計画していた研究を前倒しし、彼がアメリカ移住後に発表した講演「フッサールと観念論の問題」における現象学理解について研究した。そしてその成果を論文として公表した。また、アメリカ移住後のアドルノの現象学研究について、来日したカリフォルニア大学バークレー校マーティン・ジェイ氏と面会する機会を得たため、同氏から聞き取り調査をおこなった。

(2) 2018年度は、Th・W・アドルノの亡命期間における現象学研究を解明するため、引き続きドイツに渡航し、「Th・W・アドルノ・アルヒーフ」を訪問した。そこでは、アドルノが期間中に書き残した未公刊草稿「フッサール・ブック」、および彼の論理絶対主義批判に関連する未公刊草稿および講義録を詳細に分析した。アルヒーフ研究員からは、当該資料の成立経緯について聞き取りをおこなった。来日したフランクフルト大学のライナー・フォアスト教授の講演会に参加し、意見交換などの交流を深めることができた。また今年度は、彼の亡命期間の現象学研究のうち、彼の 非同一的なもの の思想との関連で、他者経験論について研究をおこなった。その成果については、学会発表をつうじて公表した。さらに昨年度に生じた、亡命期間の現象学研究が以降どのように展開してゆくことになったのか、という課題について、「Th・W・アドルノ・アルヒーフ」での調査結果も踏まえて、物象化および論理絶対主義批判を主題とした研究をおこなった。その成果については、論文として公表した。当初の計画では、アメリカ移住後のアドル

ノの現象学研究を調査する予定であったが、昨年度に彼の講演に関する研究成果を前倒しで公表した。今年度はコロンビア大学における資料調査のため、その準備作業として、同大学での資料の所蔵に関して調査をおこなった。

(3) 2019年度は、Th・W・アドルノの亡命期間における現象学研究を解明するため、未公開草稿「フッサール・ブック」の分析・研究を引き続きおこなった。昨年度に引き続き、亡命期間の現象学研究が以降どのように展開してゆくことになったのか、という課題について、「フッサール・ブック」とその後の著作との比較をおこない、共通の問題関心や草稿に独自の観点など、いくつかの事項が導き出された。そしてこれらの事項の中から、個別と普遍の概念を主題として研究をおこない、その成果については、論文として公表した。この「フッサール・ブック」については、今後も継続して分析を進めることになる。また今年度は、「フッサール・ブック」が成立した思想史的背景を探求するため、イギリスのオックスフォード大学を訪問し、図書館に保管されている書簡と公文書の調査をおこなった。その際、アドルノの資料だけでなく、当時彼がイギリス滞在時に関わっていたE・カッシーラーや、アドルノが現象学研究と並行して研究対象としていたK・マンハイムについての資料もあわせて閲覧した。これらはアドルノの現象学研究と同時期におこなわれていたものに関連しており、彼がそのような思索の歩みを進めていたかをしる手掛かりとなる。そしてこれらは、今後の研究を継続するにあたって、その基礎的資料となる。さらに、昨年度に学会発表で公表した他者経験論に関する研究を論文として公表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 青柳雅文	4. 巻 118
2. 論文標題 物象化論と論理絶対主義批判 アドルノの現象学研究を手がかりとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 257-278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00004583	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青柳雅文	4. 巻 114号
2. 論文標題 観念論と反観念論 亡命期間におけるアドルノの現象学研究と観念論をめぐる問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 125-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00004540	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青柳雅文	4. 巻 123
2. 論文標題 個別と普遍をめぐる 非同一的なもの の問題 アドルノの現象学研究を手がかりとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 145-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00012976	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 青柳雅文	4. 巻 2
2. 論文標題 アドルノと他者経験論 現象学研究をつうじた他者概念の理解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現象学と社会科学	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 青柳雅文
2. 発表標題 アドルノと他者経験論 現象学研究をつうじた他者概念の理解
3. 学会等名 日本現象学・社会科学会第35回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----